

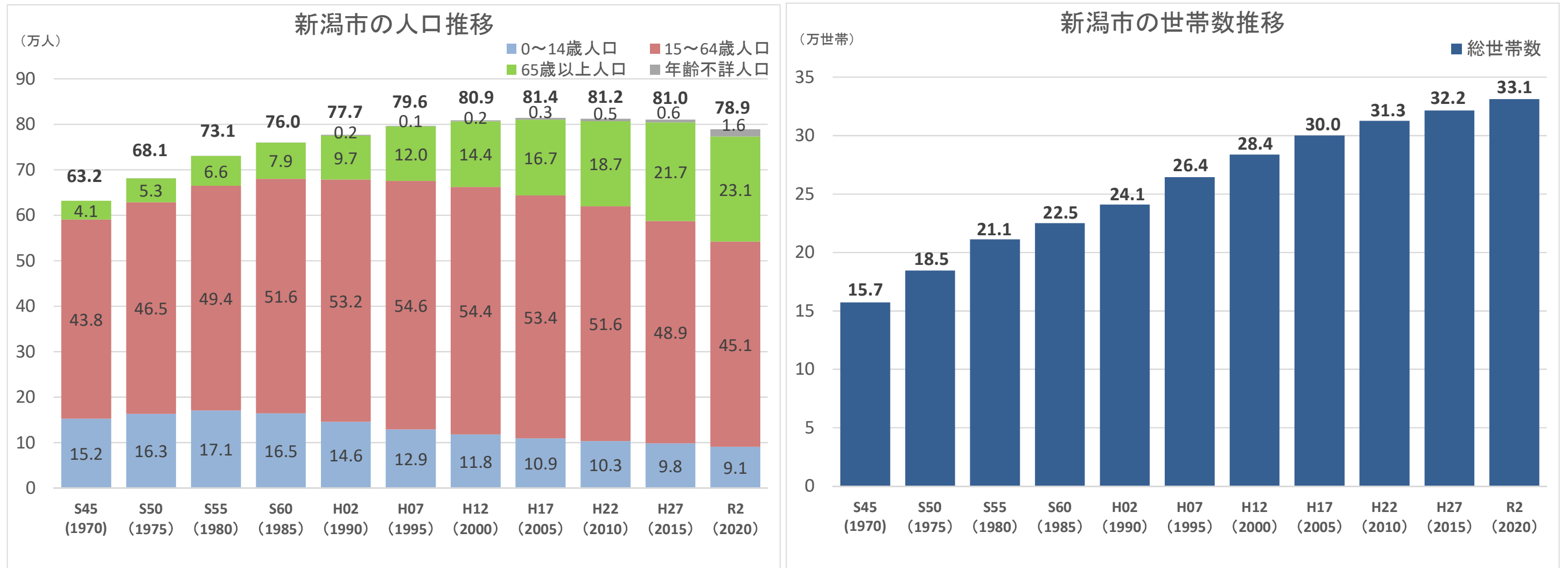
■ 1 人口の推移

1.1 新潟市の人口・世帯数の推移（令和2年国勢調査）

◇新潟市の総人口は平成17年の約81万4千人をピークに減少に転じています。令和2年国勢調査では、約79万人となっています。

◇年齢階層別人口の推移をみると、0～14歳の年少人口と15～64歳の生産年齢人口が減少するのに対し、65歳以上の老年人口は増加を続けています。

◇総世帯数は増加傾向で推移しており、令和2年国勢調査では昭和45年の2倍以上の約33万世帯となっています。



注1：人口推移及び世帯数推移は、現在の新潟市の区域に合わせています。

注2：数値を端数処理しているため、合計が合わない場合があります。

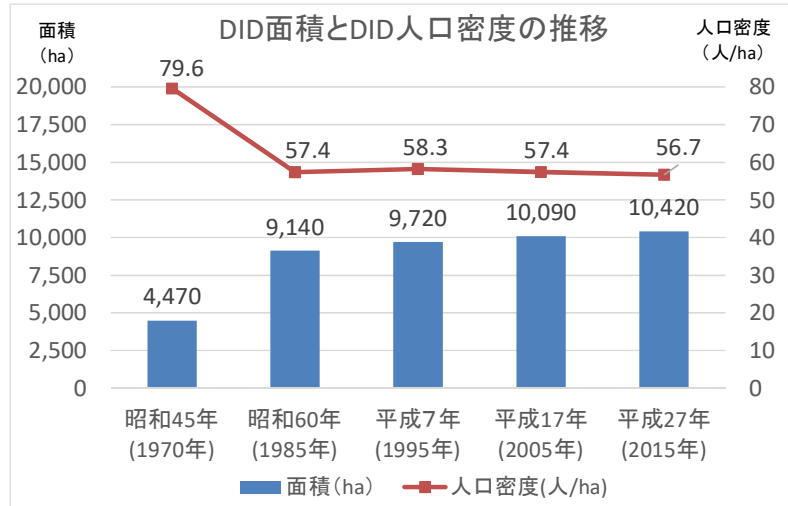
1.2 DID (人口集中地区) ※1の推移 (平成27年国勢調査)

- ◇DIDの面積は、昭和45年から60年にかけて2倍以上に増加していますが、その後は増加率が鈍化しています。
- ◇DIDの人口密度は、昭和45年から60年にかけて大きく低下し、その後は横ばいで推移しています。
- ◇DIDのエリアは、鉄道駅周辺や主な国道沿線の市街化区域の縁辺部(境界線付近の区域内)で微増しています。

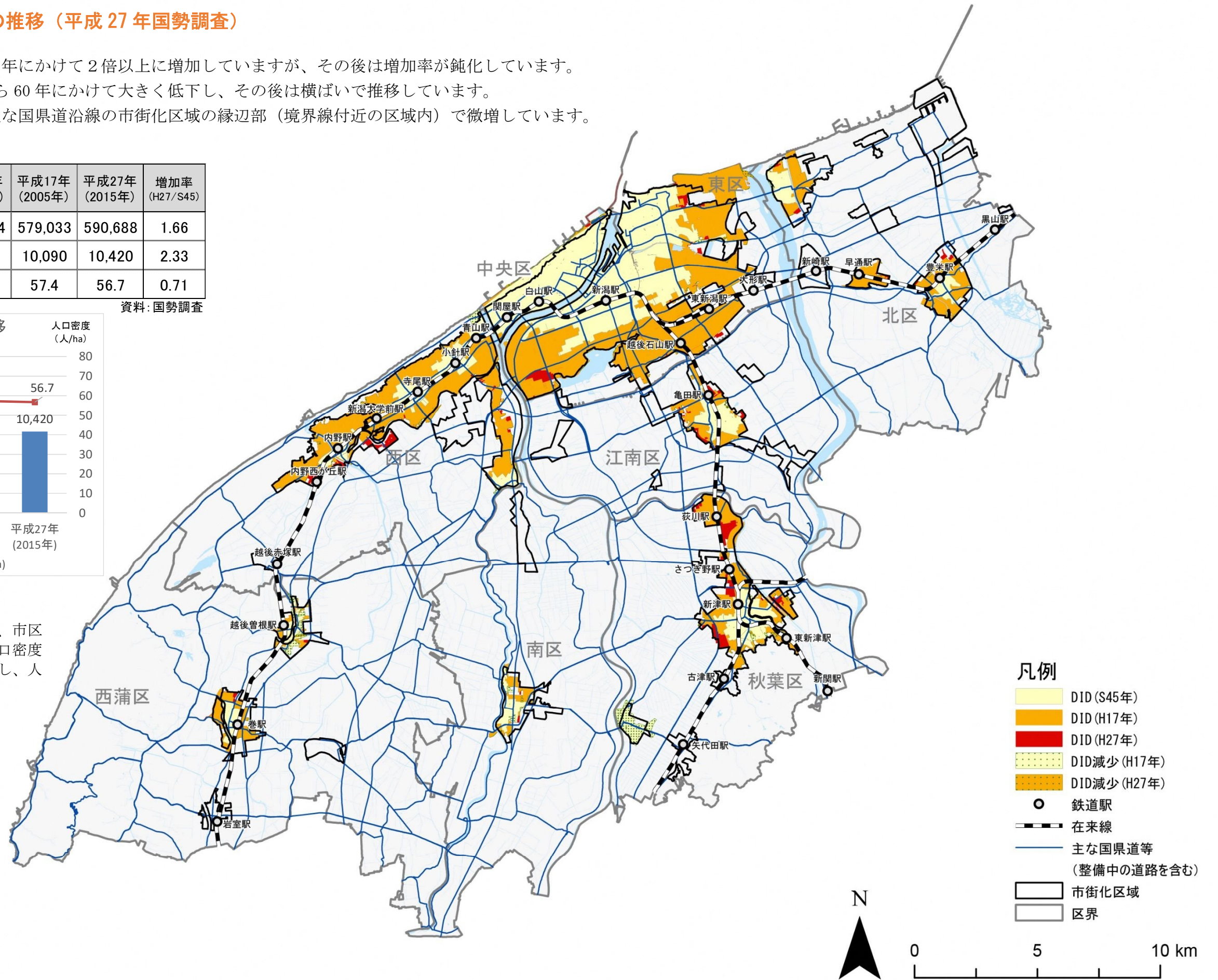
表 DIDの推移

	昭和45年 (1970年)	昭和60年 (1985年)	平成7年 (1995年)	平成17年 (2005年)	平成27年 (2015年)	増加率 (H27/S45)
人口(人)	355,866	524,339	566,214	579,033	590,688	1.66
面積(ha)	4,470	9,140	9,720	10,090	10,420	2.33
人口密度(人/ha)	79.6	57.4	58.3	57.4	56.7	0.71

資料: 国勢調査



※1: DID (人口集中地区) とは
国勢調査の基本単位区を基礎単位とし、市区町村の境界内で人口密度が高い地域。(人口密度40人/ha以上の基本単位区が互いに隣接し、人口が5,000人以上となる地区。)



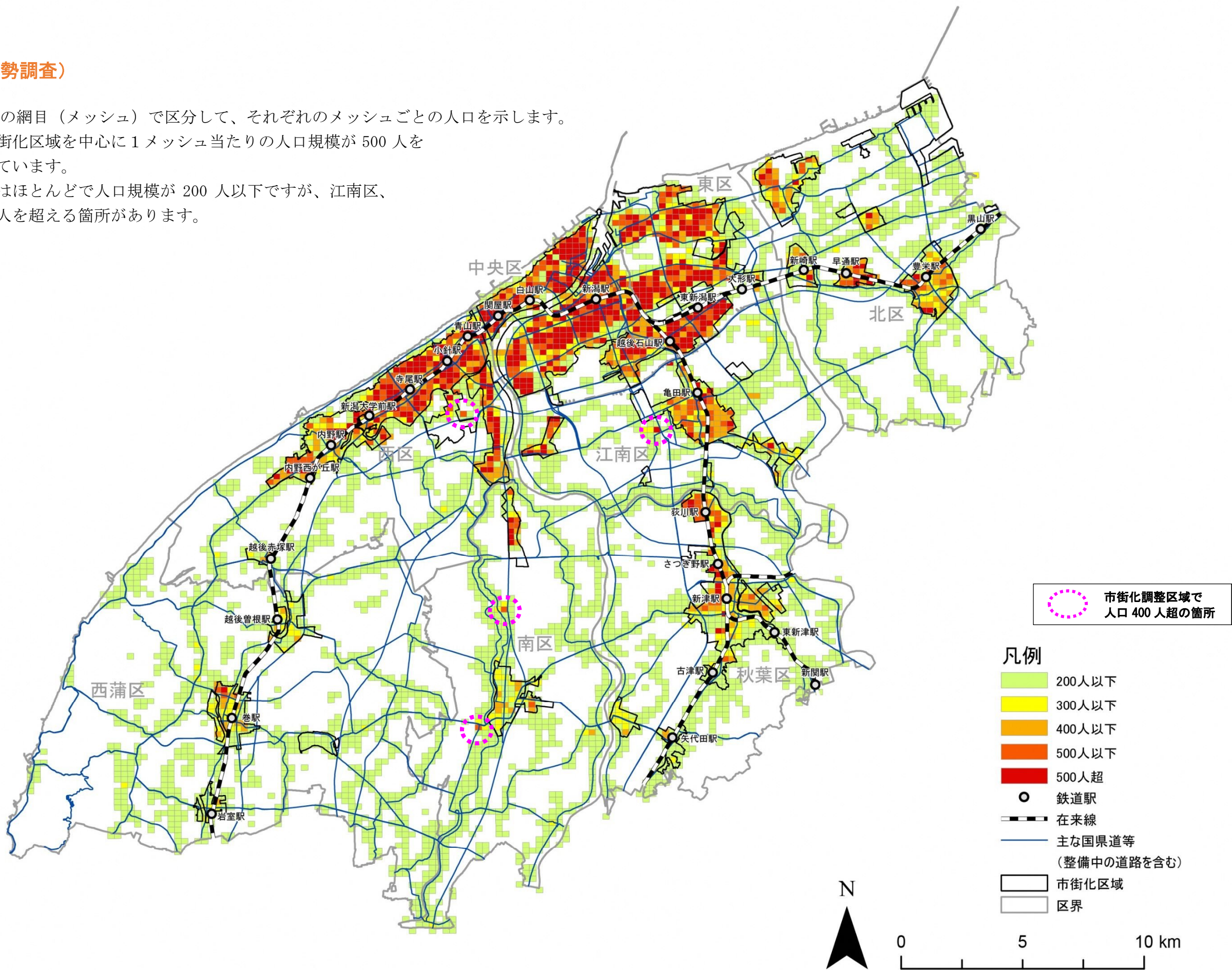
1.3 人口分布状況

人口分布（平成 27 年国勢調査）

◇新潟市域を 250m×250mの網目（メッシュ）で区分して、それぞれのメッシュごとの人口を示します。

◇東区、中央区、西区の市街化区域を中心に1メッシュ当たりの人口規模が 500 人を
超える箇所が多く分布しています。

◇市街化調整区域の集落部はほとんどで人口規模が 200 人以下ですが、江南区、
南区、西区の一部で 400 人を超える箇所があります。



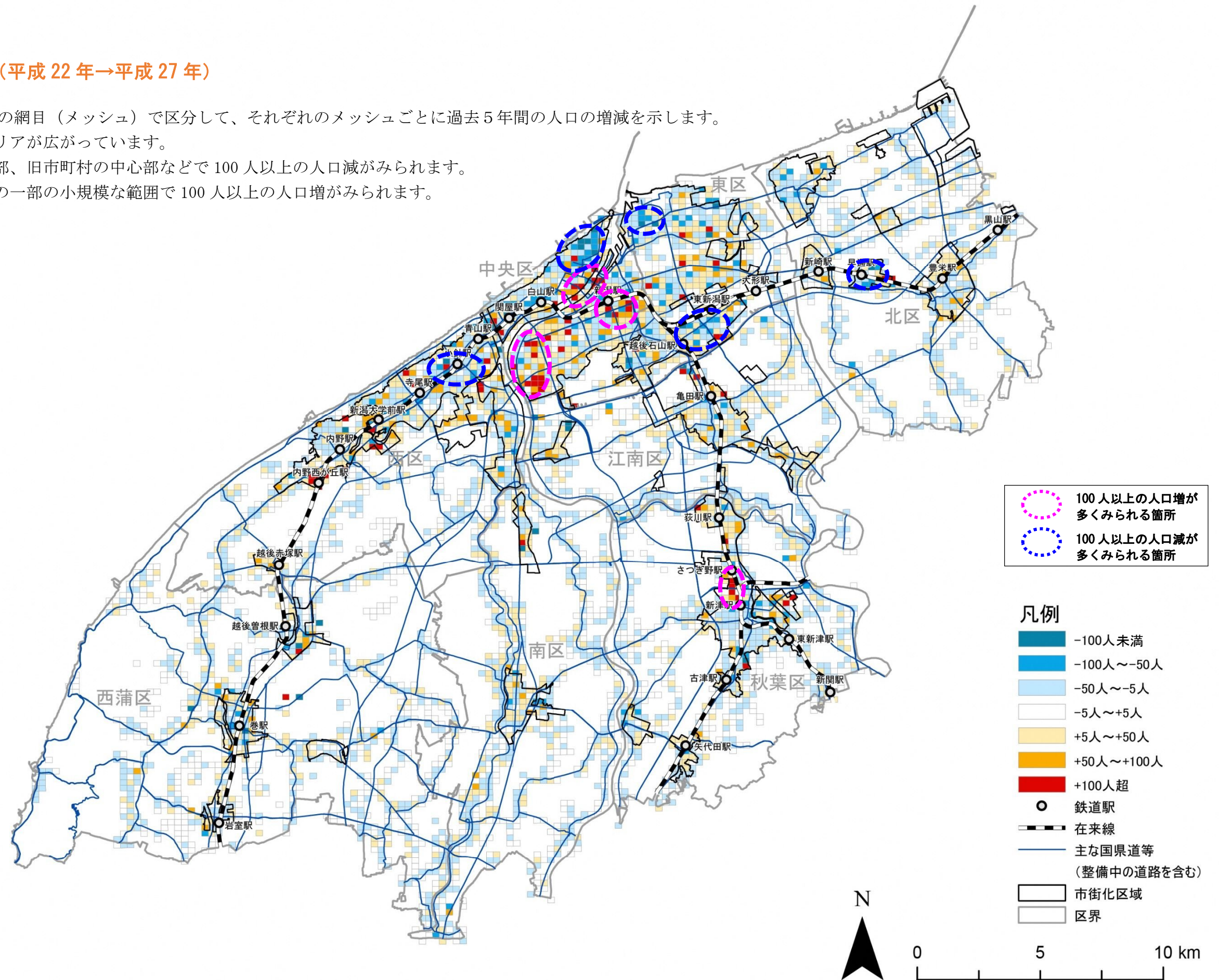
過去5年間の人口増減（平成22年→平成27年）

◇新潟市域を250m×250mの網目（メッシュ）で区分して、それぞれのメッシュごとに過去5年間の人口の増減を示します。

◇市内全般に人口減少のエリアが広がっています。

◇中央区や東区、西区の一部、旧市町村の中心部などで100人以上の人口減がみられます。

◇一方で、中央区や秋葉区の一部の小規模な範囲で100人以上の人口増がみられます。

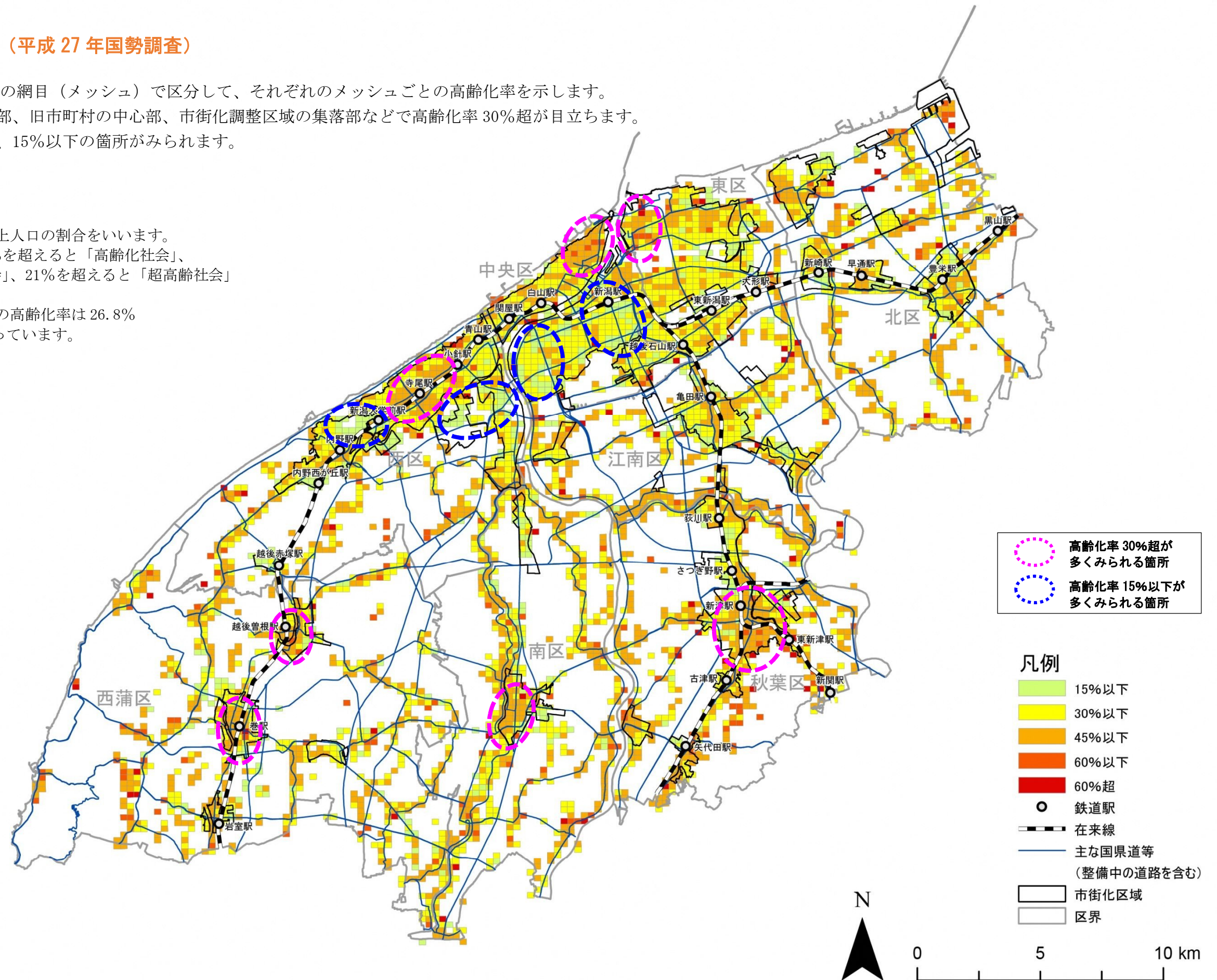


1.4 高齢化率^{※2}分布状況（平成27年国勢調査）

- ◇新潟市域を250m×250mの網目（メッシュ）で区分して、それぞれのメッシュごとの高齢化率を示します。
- ◇中央区や東区、西区の一部、旧市町村の中心部、市街化調整区域の集落部などで高齢化率30%超が目立ちます。
- ◇中央区や西区の一部では、15%以下の箇所がみられます。

※2：高齢化率とは

総人口に対する65歳以上人口の割合をいいます。
 一般的に高齢化率が7%を超えると「高齢化社会」、
 14%を超えると「高齢社会」、21%を超えると「超高齢社会」と呼びます。
 平成27年現在、新潟市の高齢化率は26.8%
 （新潟県は29.7%）となっています。



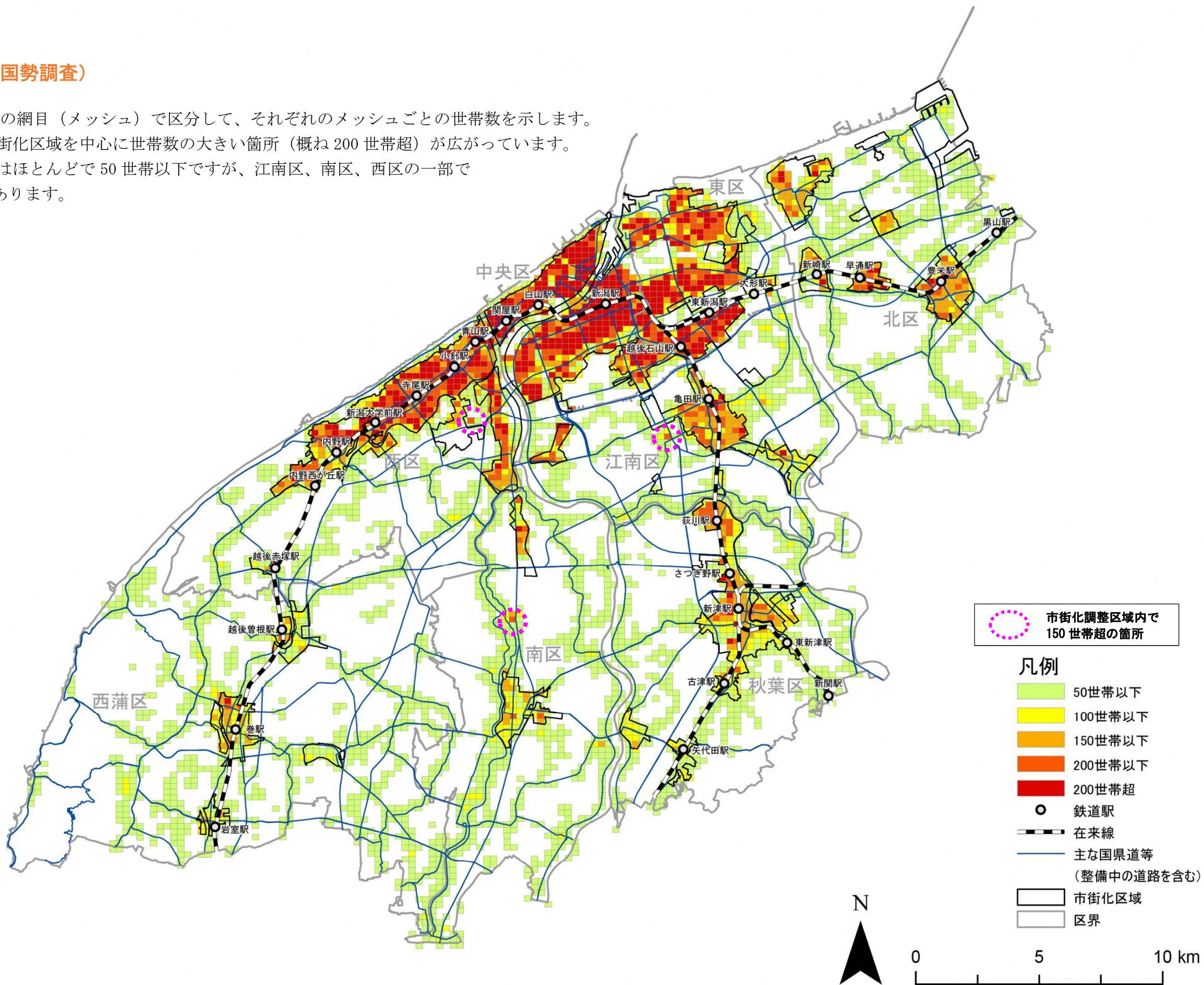
1.5 世帯数分布状況

世帯数分布（平成 27 年国勢調査）

◇新潟市域を 250m×250mの網目（メッシュ）で区分して、それぞれのメッシュごとの世帯数を示します。

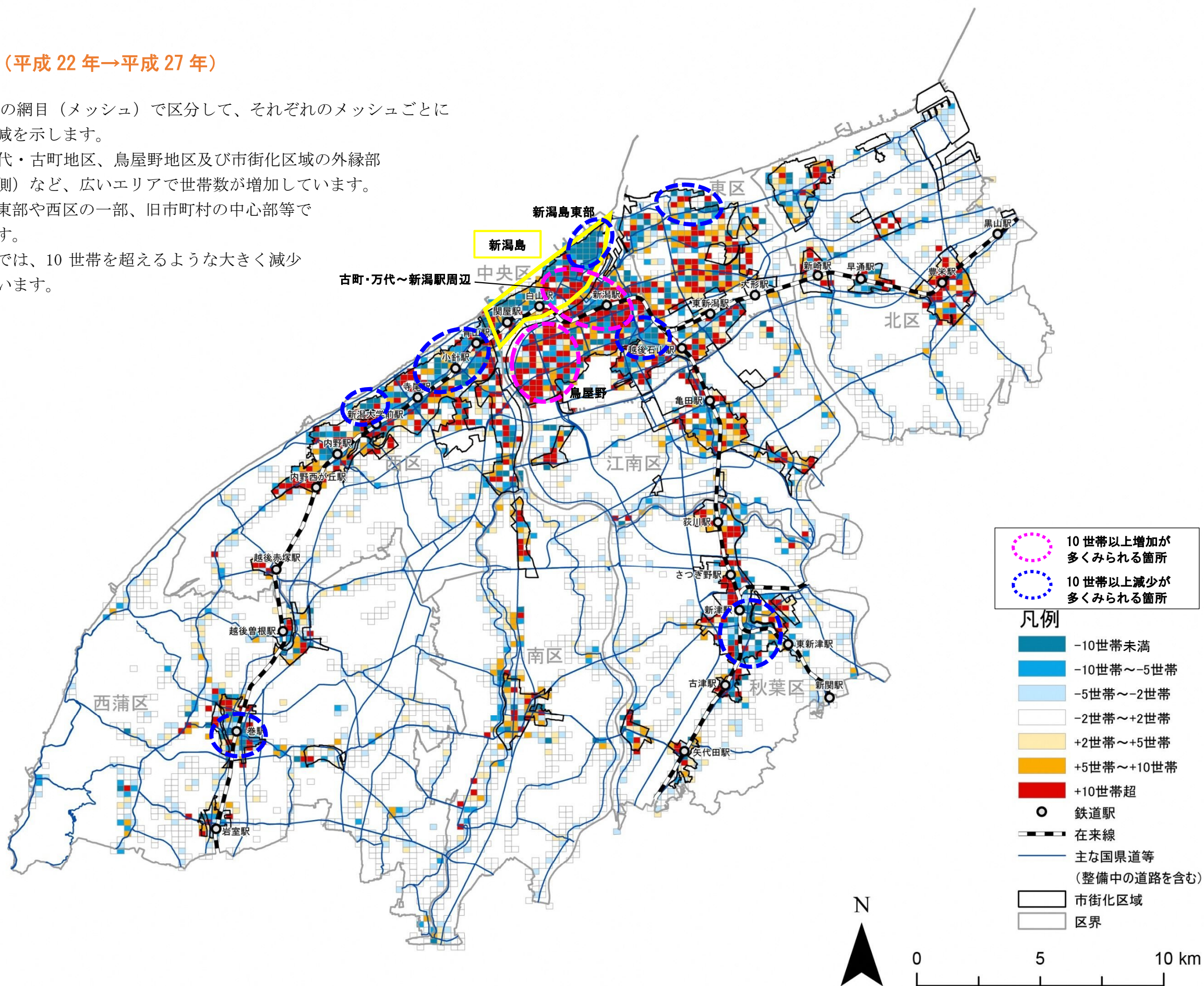
◇中央区や東区、西区の市街化区域を中心に世帯数の大きい箇所（概ね 200 世帯超）が広がっています。

◇市街化調整区域の集落部はほとんどで 50 世帯以下ですが、江南区、南区、西区の一部で 150 世帯を超える箇所があります。



過去5年間の世帯数増減（平成22年→平成27年）

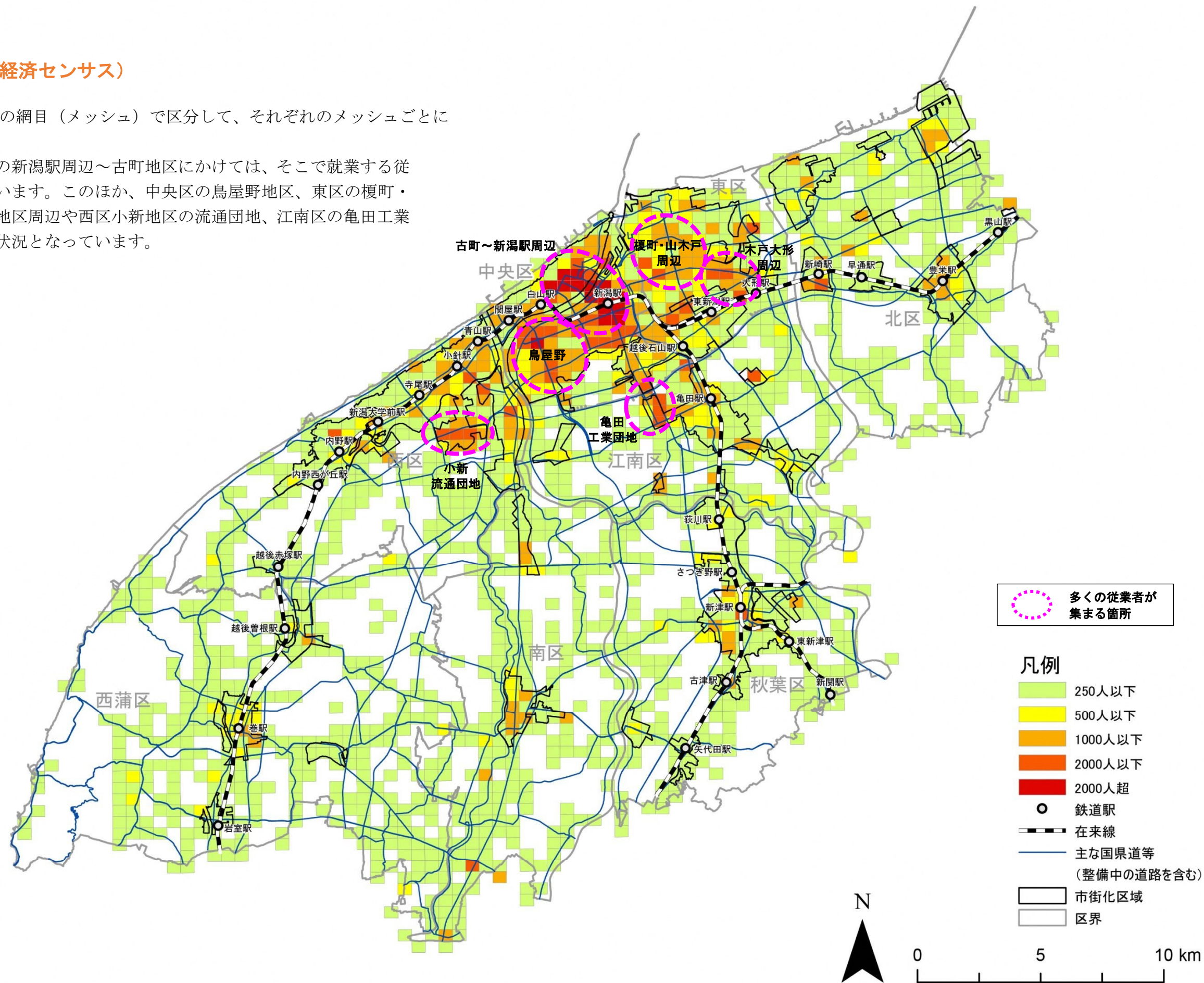
- ◇新潟市域を250m×250mの網目（メッシュ）で区分して、それぞれのメッシュごとに過去5年間の世帯数の増減を示します。
- ◇中央区の新潟駅周辺～万代・古町地区、鳥屋野地区及び市街化区域の外縁部（境界線付近で区域の外側）など、広いエリアで世帯数が増加しています。
- ◇逆に、中央区の新潟島の東部や西区の一部、旧市町村の中心部等で世帯数の減少がみられます。
- ◇市街化調整区域の集落部では、10世帯を超えるような大きく減少している箇所が点在しています。



1.6 従業者数分布状況

従業者分布（平成28年経済センサス）

- ◇新潟市域を500m×500mの網目（メッシュ）で区分して、それぞれのメッシュごとに従業者数を示します。
- ◇事業所が集中する中央区の新潟駅周辺～古町地区にかけては、そこで就業する従業者も多い状況となっています。このほか、中央区の鳥屋野地区、東区の榎町・山木戸地区及び木戸大形地区周辺や西区小新地区の流通団地、江南区の亀田工業団地なども従業者が多い状況となっています。



過去10年間の従業者数増減（平成18年→平成28年）

- ◇新潟市域を500m×500mの網目（メッシュ）で区分して、それぞれのメッシュごとに過去10年間の総従業者数の増減を示します。
- ◇北区、東区、中央区、秋葉区、西区の一部で従業者が大きく増加しています。
- ◇一方で、中央区の新潟島や旧市町村の中心部等で従業者の減少がみられます。
- ◇市街化調整区域では、従業者数は減少傾向となっています。

